

平成25年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1. 生徒の状況を的確に把握し、幅広い学習ニーズに対応する多様な柔軟な教育活動を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を密にし、三者面談を通して生徒の状況を理解しながら適切な学習支援・進路支援を行う。 体験・発表を重視し表現力、思考力を育てる総合選択科目の編成を図る。 H26からの総合学習の2単位に向け情報収集し本校のニーズに合った実施計画を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望の実現に取り組む満足した結果が出せたか。 体験学習等を重視した科目の編成が図れたか。 他の科目との連携について検討できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次で担任を中心に家庭との密な連絡がとられ、学習支援・進路支援がされた。 全年次で進路希望調査を行い、進路希望の把握に努めた。 総合選択科目の整理・再編を行う一方、家庭科や環境系列では、体験を重視した科目の設置が決まった。「総合的な学習の時間」(2単位)の内容は多角的な視点をもたせながら目標とすべき内容の絞り込みと具体的な計画立案が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と学校の連携がうまく構築できないケースがある。 進路をまだ考えていない生徒も多々いた。 3年次になる前から進路の情報を多く提供することで対応していく。 目的意識をもてない生徒には、キャリア諸能力の育成困難なので、自己理解能力の育成が必要である。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択科目が多数あり体験活動を重視していることは生徒の意欲につながっているが、進路との関連がわかりづらい。 家庭との連絡を密にして三者面談を行いながら学習支援、生活支援を行っていることは評価できる。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立に向けての取り組みという観点から、朝から登校、履修形態の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて継続的に粘り強く支援していく。保護者との連絡を密にして適切な進路選択を指導することを徹底する。 選択科目の再検討や新科目の設置・共通科目の履修など常に生徒のニーズや教育の必要性を考えながら検討していくことが必要である。 <p>(改善等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も社会人として必要な諸能力の育成に努めていきたい。
2. 社会の一員として求められる能力の育成、基本的生活習慣の確立を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育支援を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の理解と協力を得ながら服装・頭髪・遅刻指導を行い継続的に指導する。 学校生活の様々な教育活動の中でマナーやモラルの向上を図り規範意識の確立を目指す。 生徒相談体制を充実させるために情報の共有化を深め、適切で迅速な支援を行う。言を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数や頭髪指導件数が減少したか。 近隣からの苦情等が減少し、挨拶ができていますか。 ケース会議や年次会が有効に機能したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 残念ながら遅刻者数は増加した。頭髪は夏休み前までは一定の成果が見られた。 苦情は減ってきており、挨拶をする生徒は増えてきている。 各年次会で生徒情報交換を行い、定期的に生徒連絡協議会を開き、情報の共有化に努めている。 学校行事(文化祭。体育祭)において生徒が自主的に活動できる場の設定を増やすことができた。部活動も積極的に活動する部が増えているなど、自律ある活動のなかで積極的な取り組みがみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数が昨年より横ばいから増加傾向にある。 機会があるごとに生徒に注意喚起し、マナーやモラルの意識を高める。 生徒相談機関の存在を一層生徒に浸透させるなど相談体制の整備に努める。 組織的な活動を生徒が自主的に行うことで自律ある活動が進むので学校行事や年次行事などにおいて積極的に生徒に働きかけていきたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動などから見て一部の生徒については達成できていると感じている。頭髪・服装指導や遅刻指導も家庭の協力が必要なものは理解している。できるだけ協力したい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動の中でモラルの育成を図る取り組みは一定の効果はあった。自転車の登下校のマナーの改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダー的生徒の育成について部活動を中心として行いたい。 マナーやモラルの向上に学校全体で取り組んでおり、一定の効果は上がっている。しかし、遅刻服装以外の点で社会に通用する能力を様々な教育活動の場面で育成していく取り組みを工夫していきたい。 <p>(改善等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の学校行事や部活動の活性化に努めることで改善を図りたい。
3. 学習意欲の向上と社会生活に必要な基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させるカリキュラム編成を検討する。 生徒主体の授業実践のための組織的な授業研究・授業改善を推進する。 大学入試模擬試験や就職試験問題演習等を行い学力の定着を図る。 *生徒主体の授業力向上はかるため、教科としての組織的な授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体でカリキュラム編成の検討ができたか。 組織的に授業研究・授業改善に取り組めたか。 積極的に取り組む生徒数は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力向上等のため、英語の2年次必修化、総合的な学習の時間の1単位増設など、共通科目の充実を図った。 「数学I」における少人数・習熟度別授業により基礎学力の向上に努めた。 昨年度に引き続き、学校全体での研究授業は11月実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な授業改善の取り組みが進んだが、次年度は事後の研修方法も含め、さらに活性化させるために検討を行う。 生徒一人ひとりの状況を把握し、段階に応じたきめ細かい指導と自主的な学習を促す必要がある。 *学習支援の体制や家庭学習の習慣づけなど工夫を必要とする点がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着についての取り組みはカリキュラム上は理解できるが、生徒の学力向上という面からは結果はあまり出ていない。更なる工夫・検討をお願いする。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善には、研究授業や公開授業が不可欠である。回数を増やし学校全体で取り組みをしてほしい。課題研究発表会等を見学しても生徒自身が向上しようとしている様子が感じられる。発見力や解決能力が求められる時代なので今後も育成してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲やプレゼンテーション能力の向上がさまざまな発表の場を設けることで見ることができた。 <p>(改善等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図る取り組みは継続的に行いながら、生徒の興味・関心を喚起させる授業改善の取り組みは継続的・組織的に行いたい。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
4. 総合学科の特性を生かし、生徒の個性や適性を伸張し、社会生活実践力を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス科目において様々な授業形態を通して生徒の個性や適性、コミュニケーション能力の育成を図る。 科目選択では、自らの進路、特性、興味関心について深く考え自己理解を深める取り組みを行う。 将来設計を考えるに当たり、様々な情報収集をし職業理解能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に適した発表の場を設定することができたか。 自己に適した目標が設定できたか。 職業観の育成が図れたか。 *地域の教育力を活用し生徒のキャリア形成が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽部や茶道部、ボランティア部、サッカー部などいくつかの部活動において、地域連携を進め、地域の様々な活動に参加し達成感を得た。またPTAにおいても地域行事に積極的に参加し、学校行事(体育祭・文化祭)などに協力し。盛況であった。 ハローワーク等の指導を積極的に受け希望の職種を探している。 ホームページをリニューアルし、見やすくするとともに、定期的に更新し、生徒情報を増やすことでアクセス数が急増した。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員による地域連携はスムーズに行われたが、一般会員への周知や参加には課題が残った。 学校説明会で効果的に教育活動の広報をすすめたことと、学校ホームページを充実したことにより広報活動が活性化したが更なる情報発信が課題である。 部活動による地域連携や事業所見学等による教育活動により、地域の教育力を活用した取り組みが定着してきた。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA活動等も事前に予定がわかれば参加できるので予定はかなり早めに周知してもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携で小学校・中学校との連携が定着しており、その中で生徒が充足感や達成感をどう獲得するか、の仕掛けを作る教員の力や生徒との信頼関係が大切だと感じる。開かれた学校づくりのためには、適切な情報発信も大切だが、保護者や生徒が困ったときに相談しやすい体制がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをリニューアルし、定期的に更新することでアクセス数が急増したことから広報活動は前進したと考えられる。 部活動による地域貢献も地域からの依頼を受けて行うなど、取り組みは発展している。 <p>(改善等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に開かれた学校づくりを意識し、より丁寧な広報活動を行ってきたい。
5. 家庭や地域との協働・連携を通じ、地域の教育力を活用し、地域・保護者に信頼される開かれた学校づくりをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「課題研究」において、地域や外部の教育力との連携を図る。 PTA活動を推進し保護者の学校に対する理解と信頼を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部教育力と有効に連携できたか。 PTA活動が活性化したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス科目の中でその特性に合わせ、新たな先も含め、地域の教育力との連携が図られた。 就職希望者がハローワークを活用した。 月1回のペースでPTA役員会・運営委員会を実施した。 体育祭・文化祭への一般参加が多く、PTA役員、ボランティアの協力で盛り上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では、生徒のテーマごとに毎年、連携先の開発が求められるが、その対応を支援する仕組みがなく、生徒の学習のステップアップにつながりにくい。 ハローワークに行く時期が遅い生徒がいる。 地域や外部の教育資源の活用が図りやすいように校内の整備を進める。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部教育力を有効に使い、積極的な取り組みを行っている。 PTA活動を活性化させ、保護者と学校との信頼関係を深めることができた。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の活動に積極的に参加し地域貢献を行うことで教育活動に対する地域の理解が深まり協力的になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」においては事業所見学や交流体験など外部教育力を活用し勤労感の育成に努めた。外部評価を基にしながら今後の教育活動を見直していきたい。 PTA活動を通して保護者に対しての発信を適切な時期に行い信頼関係を構築していく工夫をする。 <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動を積極的に地域と連携していくことで理解を深めたい。
6. 信頼に根ざした学校づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会やHPを利用して教育活動の特色や生徒の活動状況を積極的に発信していく。 生徒の防災意識を高め安全対策を強化し地域と連携した防災体制に努める。 生徒の防災意識を高め安全対策を強化し地域と連携した防災体制に努める。 事故不祥事防止のために適切な研修計画をたて、円滑な学校運営に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> HPのアクセス数や説明会出席者数が増加したか。 地域との連携が図れたか。 適切な時期に研修が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページはトップページの整理をし、年間を通じて随時更新されており、アクセスカウンターの数字も伸びた。生徒が授業で使用する校内のネットワーク環境の中にポータルサイトを開設し、必要な情報が見られるようにした。 生徒に「備える。かわさき」ポータルを配布し、地震や豪雨への対応を考えさせた。 「かながわシェイクアウト」一斉防災行動訓練にも参加し、防災意識を向上させた。 会計研修会を7月に実施し、会計上のトラブルを回避し、適切で迅速な処理を徹底した。 従来事故防止体制に加え、不要文書の整理や新たな成績処理規準の導入を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校が企画する学校説明会などの他に、今年度から中学校主催の学校説明会が急増し、ガイダンス科目の進行、研究、開発とのバランスを取るのが難しくなっている。今後も増えると思われる中学校主催の説明会の業務分担を考えていく必要がある。 新システムの運用マニュアルに不十分な点が見られた。 過密な予定の中で有効な研修会の実施が難しい。 	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元自治会と連携した津波避難訓練が生徒も交えて行えてよかった。高校も地域ともしっかり連携が取れるとよい。 中学校生徒、保護者に対して丁寧でわかりやすい説明があり、高校体験プログラムなど学校を理解する工夫があつてよかった。 部活動の活動実績や個人の活動実績を外部に発信する機会を多くし学校の活性化につなげてもらいたい。 <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動の取り組みを外部にもっと積極的にアピールする努力をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのアクセス数が増加している。これは定期的に更新していることと、レイアウトを工夫し検索しやすいように改善したためと思われ、広報活動の成功と言える。 地域と連携し防災意識を高めるために地元自治会と部活動生徒と教員により津波避難訓練が行えたことは評価できる。 <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 私費会計を適正に行うため会計管理グループを設置し組織として事故不祥事防止により努める。